

## 炉辺談話(424)

### 戦後の RI 復帰

古い RI 理事会議事録を入手しました。その中より戦後における日本ロータリーの RI 復帰に関する記録を抜粋してご紹介します。

1946 年 1 月、東京水曜クラブの小松隆会長が、GHQ のバラード大佐に託した RI 復帰を求める要望書が、ラブジョイ事務総長を經由して RI 理事会に提出されました。1946 年 5 月に開催された理事会議事録には次の記録があります。

1946 年 5 月理事会議事録

第 270 号 日本のクラブの復帰の件

報告： 日本の旧東京ロータリークラブの元会員から寄せられた文書が、理事会に報告された。その内容は、日本の元ロータリークラブの会員はアメリカやその他のロータリー世界の感情や事情が許せば、ロータリーの親睦に復帰することを希望すると記載されている。さらにその手紙には、日本ではロータリー解散後も多くの旧ロータリークラブが他の名前の下で、現在も例会を継続していることが記載されている。

決定： 残念ながら、理事会は日本のロータリークラブ復帰の問題に関して、現在いかなる措置も取ることはできない。

1947 年 1 月に大阪金曜クラブの飯島会長は、元大阪クラブ会員 May 氏を通じて、RI 復帰に関する具体的な方法を問い合わせる書簡を RI 本部に送りました。1947 年 1 月 RI 理事会議事録には次のように記載されています。

1947 年 1 月 RI 理事会議事録

第 197 号 日本のロータリークラブの復帰の件

報告： 理事会に、現在、大阪金曜クラブの会長をしている、日本の旧大阪ロータリークラブの元会員から受け取った書簡が報告された。旧大阪ロータリークラブはあらゆる意味で存続しており、貴組織が加盟認証することを切望している。大阪ロータリークラブは早急

に RI による公式な認証を受けたいという希望を持っており、どうすれば復帰できるかという助言または指示を受けたい。

決定： 理事会は日本のロータリークラブの復帰に関して 1946 年 5 月の決定を再確認する。 すなわち、 残念ながら、理事会は日本のロータリークラブ復帰の問題に関して、現在いかなる措置も取ることはできない。

1947 年 3 月 18 日に東京の工業クラブで R I 復帰連絡協議機関設置のための懇談会が開かれ、7 月 16 日に第 1 回復帰協議会が開かれて、日本全国から 14 クラブ、32 名の有志と、駐留軍の Moss 氏が東京工業倶楽部に集まって協議をしました。

その間の情報を得た RI 理事会は、1947 年 7 月理事会議事録で次のような記録を残しています。

#### 1947 年 7 月理事会議事録

##### 第 66 号 日本のロータリー復帰の件

報告： 理事会は日本の東京水曜クラブ会長(旧東京ロータリークラブ)から受け取った最近の書状の内容を勘案して、日本におけるロータリー復帰を検討したことを記録に残した。

決定： 日本におけるロータリー復帰に関する最近の書状を再考した結果、理事会は日本のロータリークラブ復帰の問題に関して、現在いかなる措置も取ることはできないことに同意した。

1947 年 7 月の記録によると、当時各曜会と名称を変えて例会を続けているクラブは 18 であり、その会員数は 1,050 となっています。ロータリーの名称こそ使えなかったものの、各曜会の例会には、駐留軍として在日していた連合国のロータリアンが再三訪れ、盛会であったと言われています。

1948 年 7 月 14 日に、第 2 回復帰協議会が開催され、16 クラブから 40 名が参加しています。その情報を得た RI 理事会は事務総長補佐ジョージ・ミーンズを日本に派遣して、状況を精査する方針を固めました。

#### 1948 年 7 月理事会議事録

#### 第 68 号 日本と韓国のロータリー復帰の件

報告: 理事会は日本のロータリーの復帰の問題に関するこれまでの情報を再検討した結果、日本のロータリー復帰に関する検討をする前に、日本における諸条件に関して直接的かつ客観的情報を入手する必要があるという感触を得た。理事会は、事務総長補佐ジョージ・ミーンズがまもなく、インドから戻る予定なので、事務総長補佐ミーンズが途中で日本を訪問して、インドからシカゴまで共に旅行をする他のロータリアンとも相談することによって、確かな情報を得ることができるという結論に達した。さらに、事務総長補佐ジョージ・ミーンズは同時に韓国に関する客観的情報を得られるものと思われる。従って、理事会は下記の決定を記録に残した。

決定: 理事会は事務総長補佐ジョージ・ミーンズが、インドからシカゴへの帰路、日本と韓国の諸条件について徹底的な調査をするように手配することを事務総長に指示した。

中国やフィリピンのロータリアンや他の人々への対応が日本と韓国のロータリー復帰に影響を及ぼす可能性があるか否か、その真偽を見定めるために協議できるように手配することを事務総長に指示した。理事会は事務総長補佐ミーンズの報告があるまで、日本と韓国のロータリー復帰問題に関する処置を延期する。

上記決定は極秘、非公開とする。

1948年9月1日、インドに駐在していた RI 中央アジアの副事務総長ジョージ・ミーンズが、日本を訪れ、東京水曜会の例会に出席して、小松復帰協議会会長から、日本の実情を聞くと共に、大阪金曜会やその他の七曜会を訪れて、日本のロータリークラブが名前こそ変えながらも、脱退以前と変わることなく例会を続けている状況を RI に報告します。

#### 1949年1月理事会議事録

#### 第 163 号 日本のロータリー復帰の件

報告: 1948年7月に開催された理事会は、事務総長補佐ジョージ・ミーンズがインドからシカゴの帰路、日本の状況を徹底的に調査し、中国やフィリピンのロータリアンや他の人々への対応が日本のロータリー復帰に影響を及ぼす可能性があるか否か、その真偽を見定めるために協議できるように手配することを事務総長に指示した。理事会は事務総長補佐ミ

ーンズの報告があるまで、日本のロータリー復帰問題に関する処置を延期することを決定した。

1月の理事会において、理事会の指示による事務総長補佐ミーンズによる日本での調査、中国とフィリピンにおける協議に関する報告が口頭で行われた。

事務総長補佐ミーンズの報告に基づいて、日本のロータリー復帰に関連する様々な問題点について詳細な討論と熟慮の結果、理事会は以下の結論に達しそれを記録に残した。

決定:

- (a) 可及的速やかに日本のロータリー復帰を承認する。
- (b) 日本における仮クラブの結成を支援するために、理事会に代わって訪日する RI の事務局のスタッフを任命するよう会長と事務総長に指示する。
- (c) 仮クラブの組織に伴って必要な経費を賄うために、RI の剰余金から \$4,000 または必要に応じる金額を支出することを認める。

理事会は 1948 年 7 月に要請された課題を見事に達成した事務総長補佐ジョージ・ミーンズに感謝表明する。

1949 年 3 月 9 日に再び日本を訪れたミーンズは、RI 理事会が同年 6 月の国際大会までに日本のロータリーが復帰することが決定したことを知らせます。この吉報を受けた協議会は、このことを各クラブに知らせると共に、その準備にかかり、東京水曜会は 3 月 16 日に解散して、3 月 23 日にチャーター・メンバー 157 名で創立総会を開催し、3 月 29 日には RI から以前の登録番号 855 のままで認証を受けました。これに続いて京都、大阪、名古屋、神戸、福岡、札幌の

7 クラブが順次 RI に復帰し、第 60 地区として戦後の日本のロータリー運動が再開されることとなります。東京クラブのチャーター・ナイトは同年 4 月 27 日に開催され、マッカーサー元帥(後に東京クラブ名誉会員)や吉田茂首相からの祝辞が披露されました。

#### 1949 年 5 月理事会議事録

##### 第 182 号 第 60 地区の構成

- (a) 1949 年 7 月 1 日より、日本におけるロータリークラブが地区として承認された。第 60 地区は日本全体のクラブおよび将来日本で承認されるすべてのクラブを含む。

- (b)日本のロータリークラブに、地区ガバナーを指名するように要請した。地区ガバナーに指名された者はRIの経費負担によって、1949年の国際協議会に参加するものとする。
- (c)特別な状態を勘案して、第60地区ガバナー・ノミネーが国際協議会に出席する費用は、1949年のニューヨーク国際大会の費用も含めて、RIが負担することに同意する。

RI脱退中もロータリー例会そのままの非公式例会を続けていたことが大きな評価を受け、クラブ歴、個人歴共に、この期間を含めることが認められることになりました。

RI復帰に際して、戦前の日本のロータリーの強引な手法を牽制する意味から、離脱中の七曜会の解散、RIの定款・細則の厳守、RIへの義務の完全履行、更に、各クラブはそれぞれRIに直結しているので、クラブが地区や国単位で固まって行動を起こさないことを誓約したという説がありますが、そのことに触れた理事会議事録は見当たりません。